

令和7年度 第6回佐久市社会教育委員会議 会議録

日時 令和8年1月29日（木）午前10時～午前11時30分

会場 佐久市役所保健センター2階 集団指導室

1 開 会 依田副委員長

2 あいさつ 原委員長

3 会議事項

（1）令和8年度佐久地区社会教育連絡協議会総会研修会について

委員長：事務局から説明をお願いします。

事務局：資料1をご覧ください。5月の総会研修会に向けた発表資料のたたき台を作成しました。本日は、特にスライド19枚目の「活動の中で感じた課題」や、全体の構成についてご意見をいただきたいと思います。

〈質疑応答・協議〉

【発表の構成・担当者について】

委員：スライドが部会ごとではなく時系列になっていますが、発表はどなたがする予定でしょうか。

事務局：発表者については次回詰められればと考えています。例えば各グループから1人ずつ出るなど、複数人で分担する形も可能です。

委員：時系列も分かりやすいですが、それぞれの部会で分かれてやってきたことなので、各部会の代表の方が出て説明した方が、質問が出た際などに答えやすいのではないかと思います。

事務局：では、全体の経過を委員または事務局が話し、CSグループや子育て支援グループの活動詳細（スライド12～16あたり）については、各グループの担当委員が詳しく説明するというイメージで修正させてもらいたいと思います。

【課題の表記について（縦割り行政・スケジュール等）】

委員：「居場所について感じた課題」のところで、私としては、一番ネックになったのが「縦割り行政」です。社会教育がどこまで踏み込んでいいのか、他の課のことではないかと悩みながらやってきた部分があります。できること・できないことの指示があれば迷わずに済んだとも感じたので、課題の一つとして挙げさせていただきたいです。

事務局：ありがとうございます。これまでも寄せられていた課題ですので、表現を工夫しつつ、しっかり載せさせてもらいます。

委員：スライド19の課題例に「メンバーのスケジュール調整が大変」とありますが、これは「居場所活動」に限ったことではない気がします。これを入れると違和感がありました。

事務局：確かに一般論的なことですので、皆様の意見を聞きながら修正していきたいと思えます。

委員：19ページの「課題」という表記については、単に「大変だった」ではなく、「大変な中でどうやってきたか」「我々が目指してきたこと」といった、もっとポジティブな表現に書き換えた方が良いと思います。

【成果物（マップ・カード）と表現について】

委員：スライド17の「情報を一元化したマップの作成をしたい」について、一元化とはどういう状態（物理的なのかオンラインなのか）なのか、もう少し具体的なハウトゥーが載っていた方が分かりやすいと思いました。

事務局：ご指摘通り、初めて聞く方にも分かるよう丁寧に表現を修正します。

委員：作成中のマップ（カード）について、完成形でなくても「こういうところまで作りました」という途中段階の画像などを載せてほしいです。視覚的に分かりやすくなると思います。

事務局：委員からいただいた画像などを入れられるようにします。活動の部分が少し見えづらいというご指摘ですので、時間を割いて厚みを持たせるように修正します。

【社会教育委員会議のあり方について】

委員：スライド5の「以前の会議は……」という部分ですが、本来、社会教育委員は教育委員会からの「諮問」に応じて「提言」するのが仕事ですが、今までは諮問がほとんどありませんでした。だからこそ、自分たちでテーマ（居場所）を決めて活動してきたという経緯があります。

委員：スライド5から10あたりで、佐久市における委員会の変遷（受け身から主体的な活動へ）が分かるようにしてほしいです。他の市町村にとっても、行政と委員の関係性のモデルになるような発表ができればと思います。

【まとめと次回に向けて】

委員長：CSグループ、子育て支援グループそれぞれで内容を詰めて、次回までに発表内容を考えてきてください。特にCSグループは、コミュニティ・スクールの先進事例として具体的な成果が見えるように。子育てグループは、カードやマップの成果物を含めて作り上げるのはどうでしょうか。

事務局：事務局で全体の枠組みと共通の流れを修正して用意します。各グループの活動詳細（思いや具体的内容）については、次回会議で時間を取りますので、グループごとに話し合って内容を詰めてきてください。

委員：課題ばかりでなく、活動してきた「成果」や「良さ」も入れてほしいです。居場所について考える形に変えてきたこと自体が成果だと思います。

事務局：グループごとの成果と、会議全体としての前進の部分もお伝えできるよう工夫します。

（2）社会教育委員と生涯学習についてのアンケートの結果について

委員長：事務局から説明をお願いします。

事務局：資料2は「そよかぜ」の最新第13号になります。全国大会等に参加された方に寄稿をお願いし、原稿をお寄せいただきました。内容は各自お読みいただければと思います。

資料3は、今年度市内4つのイベントで佐久市社会教育委員の認知度を図る目的でアンケートを取った結果です。「社会教育委員の存在を知っていますか」という項目については、「知っている」が半数以上でした。しかし、「社会教育委員だより『そよかぜ』を見たことがありますか」については、「見たことがない」という方が約57%、「見たことがある」方は4分の1程度と

いう結果になりました。この結果を踏まえ、今後「そよかぜ」や社会教育委員の周知を図るにあたり、どのようなことができるか、皆様と協議できたらと思います。

〈質疑応答・協議〉

【アンケートの集計方法について】

委員：資料3について質問です。集計方法は紙媒体ですか？合計数が合わない箇所があるのですが。

事務局：集計方法は紙です。4つのイベントがありましたが、それぞれのイベントが独自に行っているアンケート用紙の中に、「佐久市社会教育委員と佐久市の生涯学習についてお聞きします」という質問項目を追加させていただき形で実施しました。そのため、性別・年代・居住地については、イベント元のアンケートで聞いていない場合（イベント①・④など）があり、合計数が合わない部分がございます。

委員：3ページの問2「『そよかぜ』を見たことがありますか」で、「ない」が57%という結果ですが、この内訳（年代別など）は集計していますか？どの層が見ていないのか知りたいです。

事務局：現在は単純集計の段階ですが、ご要望があればクロス集計を行い、提示させていただきます。

委員：ぜひ知りたいです。

【回答者の重複と分析について】

委員：4つのイベントのうち同じ人が重複して回答している可能性もあると思います。その場合、正確な分析にならないのではないのでしょうか。「知らなかった」人の情報を誤って捉えると、それに対するアプローチも変わってしまうと思います。

事務局：おっしゃる通り、重複して回答されている可能性は否めません。また、こういったイベントに参加される方は、そもそも社会教育に関心がある層であるという前提があります。まずは、そういった「前向きな層・関心のある層」にどう浸透させるか、また、今まで打てなかった層に知ってもらうための参考値・ヒントとして捉えていただければと思います。

【周知方法の改善（SNS・公式LINE等）】

事務局：アンケート結果を見ると、「思ったより見たことがない人が多い」「ほぼ知らない」という現状があります。これを踏まえて、今後の戦略を練っていきましょう。「そよかぜ」の発行は当面続けていきますが、いかに届けるかについて、ご意見があればお願いします。

委員：市の公式LINEなどで流していますか？

事務局：LINEでは流していません。現状は、社会教育施設や図書館への紙媒体の設置と、ホームページへの掲載です。

委員：データであればコストもかかりませんし、ボタンをクリックするだけで見られるので、公式LINEやSNS等でどんどん流すべきだと思います。

事務局：振り返ってみると、最低限そのくらいはやるべきでした。まず実施します。

【学校を通じた配布（オクレンジャー等）について】

委員：前回も言いましたが、学校でも保護者宛てに配布してもらう、あるいは連絡網（オクレンジャー等）で流してもらうことはできないでしょうか。

事務局：学校への配布は物理的に一番効果的ですが、現在の方針として、配布物を減らす傾向にあり、壁があるのが事実です。オクレンジャー等の配信についても、学校教育に直接関係のないものについては、学校側の負担や費用の問題もあり、お断りされるケースが多いのが現状です。

委員：市のLINEも、登録していても「来たから読む」とは限らないですよ。興味を持ってもらうための工夫が必要だと思います。

【「そよかぜ第13号」の内容修正について】

委員：「そよかぜ」の内容について1点だけ。シンポジウム報告の記事（資料2の右側）で、「障害者」の「がい」の字が、漢字（碍）を使っています。あえてその字を使う意図があるなら良いのですが、学校教育現場等ではひらがな表記が一般的であり、整合性が取れていないと気になりました。

他の記事や学校現場との統一性を図る意味でも、ひらがな等に修正した方が良いと思います。

事務局：学校現場での表記（ひらがな）に合わせる方が無難であれば修正します。

委員：もう1点、「佐久市では数年前…」という表現がありますが、これは「佐久市（行政）」が主催しているわけではなく、あくまで「社会教育委員会議の部会」で行ってきたことなので、行政主導と誤解されないよう表現を修正してほしいです。

事務局：承知しました。修正します。

【今後の編集体制について】

事務局：最後に、「そよかぜ」の発行体制についてです。これまでは事務局主導の部分もありましたが、今後は皆様主導で進めたいと考えています。編集委員会を別途立ち上げるのは負担かと思しますので、今後、この全体会議の中に「編集会議」の時間を設け、発行時期や執筆担当者を皆さんに決めていただく形で進めさせていただきます。ご承知おきください。

（3）その他

事務局：

● 学校の出席扱いについて

前回の会議で指摘のあった「不登校児童生徒の出席扱い」について報告します。教育委員会の見解としては、校舎内には一歩でも入れば出席扱いになり、学校外施設への通所は文科省に認知されている施設（フリースクール等）で、学校と連携が取れ、学習活動が確認できる場合は認める方針です。最終的には校長の裁量となりますが、教育委員会として統一的な運用を目指しているため、何か情報がありましたらご連絡ください。

● 生涯学習に関するアンケート結果速報

資料4の通り、413件の回答を得ました。結果を見る限り佐久市は他地域に比べ、「情報の入手しにくさ」や「時間帯の不一致」を学習阻害要因に挙げる割合が高い傾向にあります。今後詳細な分析を行い、教育振興基本計画策定に活かします。

● 次回日程・視察について

4月にオープン予定の「野沢地区 子ども・子育て支援拠点施設」の見学を計画しています。4月10日、14日、20日、27日の午後に候補として調整します。次回の会議は3月頃を予定し、5月の発表資料の最終調整を行います。

4 閉 会 依田副委員長